

## <文献目録>

# 日本におけるカナダ研究・カナダ関連の近著

(\* は本誌に書評を掲載した書籍)

2020年5月～2021年4月のカナダに関する論考が含まれる主要な書籍は以下の通りである。なお、一般向けの「啓蒙書」についても、複数の大学図書館に所収されている場合はリストに加えた。

- ・ポール・タフ著、高山 真由美訳『ハーレム・チルドレンズ・ゾーンの挑戦：貧乏人は教育で抜け出せるのか?』(みすず書房、2020年)
- ・ジム・カミンズ、マルセル・ダネシ『カナダの継承語教育：多文化・多言語主義を目指して(新装版)』(明石書店、2020年)
- ・紺野 滋『知られざる福島移民：キューバ、ペルー、ハワイ、カナダ』(歴史春秋出版、2020年)
- ・平田 淳『カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政』(東信堂、2020年)\*
- ・樋口 亮介、深町 晋也編著『性犯罪規定の比較法研究』(成文堂、2020年)(和田俊憲「カナダ刑法における『性犯罪』への対応」所収)
- ・小山 剛ほか編『日常のなかの〈自由と安全〉—生活安全をめぐる法・政策・実務』弘文堂、2020年(手塚崇聡「カナダにおける大麻法とハーム・リダクション政策」；山本健人「カナダ移民法における安全確保と経済効率性—ハーバー政権の移民法改革以降を中心に」所収)
- ・松田 雅子『マーガレット・アトウッドのサバイバル：ローカルからグローバルへの挑戦』(小鳥遊書房、2020年)
- ・矢頭 典枝『あなたの知らない世界の英語』(アルク EJ 新書、2020年(電子書籍))('カナダ英語'所収)
- ・『カナダにイノベーションを开花させた100年の歴史』(National Research Council Canada, 2020年)

- ・寺島 優『占領下のエンタテイナー：日系カナダ人俳優&歌手・中村哲が生きた時代』（草思社、2020年）
- ・秋田 茂・細川 道久著『駒形丸事件—インド太平洋世界とイギリス帝国』（筑摩書房 ちくま新書、2021年）\*
- ・秋道 智彌編・角南 篤編著『疫病と海』（西日本出版社、2021年）（岸上伸啓「カナダ先住民の疫病との戦い」所収）
- ・関 俊彦『カナダ：北西海岸の先史時代』（六一書房、2021年）
- ・秋月 謙吾・城戸 英樹編『政府間関係の多国比較—中間政府への権限移譲の実態』（慈学社出版、2021年）（城戸 英樹「カナダにおける連邦・州関係—政治家の移動から見た中央地方関係」所収）
- ・河原 典史著『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』（古今書院、2021年）\*
- ・飯野 正子・竹中 豊総監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章〔第2版〕』（明石書店、2021年）\*
- ・馬場 淳他編『萌える人類学者』（東京外国語大学出版会、2021年）（渥美 一弥「伝統文化復興に萌える人々—サーニッチにおける現代カナダに先住民として生き残るために協力する装置としての文化」所収）
- ・菊地 俊夫編『地の理の学び方—地域のさまざまな見方・考え方—』（二宮書店、2021年）（大石 太郎「カナダの地域としての見方・考え方」所収）
- ・飯塚 遼・菊地 俊夫『観光地誌学—観光から地域を読み解く—』（二宮書店、2021年）（菊地 俊夫「農村空間の観光化からみたカナダのカウチンヴァレー」；飯塚 遼「自然環境の保全と適正利用からみたカナダ・ブリティッシュコロンビア州」所収）
- ・坂本 いづみ他編『脱「いい子」のソーシャルワーク：反抑圧的な実戦と理論』（現代書館、2021年）（坂本いづみ「カナダでのソーシャルワーク教育の状況と課題」所収）